

伝えたい本当の宝物

法座で聞いたありがたい言葉
重みのある言葉
単なる言葉ではない
お念仏から出た言葉
そうでなければ響かない
その言葉はご法義をいただいた者の何よりの宝物です
だれにも破られない本当の宝物です
そんなありがたい言葉を
次にどのように伝えたらよいのか
90歳を過ぎて 今の私の課題です

ウェブサイトはこのときのインタビューを掲載しています
ご協力をいただいた皆さまに厚く御礼申し上げます



「誕生日」 東井義雄

誕生日おめでとう

お父さんお母さんから

いのちをひきついで

おじいさんおばあさんから

いのちをひきついで

その前のおじいさんおばあさんから

その前のその前のご先祖から

いのちをひきついで

何億年も昔からの

いのちをひきついで

あたらしいいのちの

この世への誕生

おめでとう おめでとう

今年は、浄土真宗の宗祖 親鸞聖人（1733～1263）生誕850年の節目の年になります。日本では、戦後欧米の影響を受けて誕生日をお祝いするようになったようですが、本願寺では江戸時代の文化年間に、親鸞聖人がお生まれになった京都伏見日野の里に誕生院を建立し、明治7年からは5月21日を降誕会として特別な法要を勤め、今では毎年、世界中の真宗寺院で親鸞聖人のお誕生日をお祝いしています。

浄土真宗の僧侶で教育者の東井義雄氏は「誕生日」という詩を書かれています。

私たちには多くのご先祖がいます。一代前は両親の2人、二代前は祖父母を合わせて6人、三代前は曾祖父母も合わせて14人。かりに一代30年とすると、親鸞聖人ご誕生の850年前までさかのぼると5億人を超えます。その中の誰か一人でも欠けると、私は存在しません。

また「いのちをひきつぐ」とは、単に生命だけではなく、先祖たちの思い「人生でこれだけは忘れないでほしい」という願いも引き継いでいるのです。このことを認識できていないかもしれませんが、しかし、わたしの物事を判断する大切な基準になっているのです。

親鸞聖人は、※なもあみだぶつ「南無阿弥陀仏にあうところ、たぐいまれな尊い果報なのです」といわれ、阿弥陀仏を信じ、念仏をよるこばれる人生を歩まれました。その親鸞聖人が浄土真宗のみ教えを顕らかにされた立教開宗から800年が経ちます。多くの先人が念仏をひきつぎ、次の世代へ思いや願いを伝えようとしてきました。

何をひきついでいるのか。
次の世代に何を託すのか。
あなたはごう思いますか？

※『親鸞聖人御消息第四通（現代語訳）』



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年



本願寺山口別院

浄土真宗本願寺派山口教区教務所

〒754-0022 山口市小郡花園町 3-7

TEL 083-973-4111 FAX 083-973-4631

過去の広告もご覧いただけます

本願寺山口別院

